

大洗町まち・ひと・しごと創生有識者会議 第1回での意見と対応(案)

分野	意見要旨	対応案
産 業	○サンビーチなどは震災以降客離れが進んでいる。磯節や大洗神社などでの客集めは難しい上、海水浴に拒否反応のある親世代が増加しているので対策を考えなければいけない。	○海岸や水産資源については、大洗町の貴重な地域資源であり、交流人口の確保や大洗町の魅力発信に不可欠な要素と認識しています。
	○毎年新聞に出る海水浴場のレベルなどをひとつの指針に、海は極力綺麗に保ち続けていきたい。	○これらについては、総合戦略の施策策定の中で、まちづくり推進課、観光商工課、農林水産課等の関係部署において必要な施策を検討したいと考えます。
	○環境の観点では、例えばサンビーチを「蛤を育む浜」などとして、採捕禁止とするよりもプラスに表現すれば、町の魅力に繋がっていくのではないか。	
	○千葉が養殖の蛤を浜に提供しているのを参考にすれば、人が集まるのではないか。大洗の就業者でも、利便性などを求めて水戸に住んでいる現状を見ると、外部からの転入者に大洗という選択肢がすぐ浮かぶような何かがあれば、人口増に繋げていけると思う。	
	○インバウンドのお客様はありがたいが、海外からの客層には、色々な不安要素がある。	○インバウンドは、観光振興において国を挙げてその誘客に取り組んでいるところですが、ご指摘のように不確実性も想定されることから、誘客面において町内事業者を支援する施策を検討したいと考えます。
	○今後の高齢化社会に伴い、増加すると想定される耕作放棄地の活用法を見出し、創生事業に組み入れていきたい。	○農業は、食の安全という視点からも重要な産業ではありますが、高齢化、担い手不足という問題に直面しています。そのため、後継者の育成、農業生産環境の整備等の他、交流資源として活用等、農業の多面的利用についての施策を検討したいと考えます。

分野	意見要旨	対応案
医療	○医師が少なく大洗町で出産できないという問題も是正して欲しい。	○医療環境については、子育て層を中心に関心が高い分野であり、町内施設の充実とともに、近隣の医療施設へのアクセス確保等の施策についても検討したいと考えます。
	○医療の充実については、近隣に大病院があり、車が多く普及している今、大洗町の人口に影響は少ないと思う。それよりも病児保育の充実など、保育所の中身について考えていくべきである。	

分野	意見要旨	対応案
子育て・教育	○出生率の減少に驚いている。若者の自然な出会いの場を作る為には、ボランティアでは限界があるので、行政でも予算を費やす必要がある。	○出生率の上昇については、時間を要する課題であると認識しています。この点については人口ビジョンにおいて、目標値を示しながら、その実現に向けた施策を検討したいと考えます。
	○教育費・養育費のことも鑑み、子育て支援にも力を入れて欲しい。	
	○女性、母親の視点から、学童・保育園等を充実させて、母親が安心して働ける町になって欲しい。女性ネットワークでは食を大切にしているので食育ができる場が欲しい。	○子育て・教育については、非常に重要な施策と捉えています。一方で、他の自治体でも力を入れて取り組んでいる施策であり、支援内容の充実とともに、大洗町の地域性を生かした教育プログラムの提供等についても検討したいと考えます。
	○子育ての話では、個人個人のネットワークで保育支援をするなどのサポートを大洗で受けられれば、女性は非常に助かると思う。	
	○小中学校の統廃合が進み子供が減っている現状、需要の減少を考えれば、保育サービスについては徐々に良くするのではなく、狙って充実させなければ意味が無いと思う。	
	○自然動態をプラスにする為には、子育て環境の整備、公共交通の充実など、トータルの環境のレベルを上げていく必要がある。	

分野	意見要旨	対応案
結婚	○転入・転出理由で最も差が大きい「結婚」が、マイナスの原因を探る上で重要な点になると思う。	○一般的に結婚を機に親元から離れて暮らすという傾向が見られますが、意向調査結果を鑑みながら若年層の定住支援策について検討したいと考えます。

分野	意見要旨	対応案
雇 用	○ハローワーク水戸内の有効求人倍率は 1.09 倍だが、求職者の約 7 割が正社員を希望する一方、非正規求人の割合が高く、正社員求人は全体の約 4 割ほどである。	○社会的潮流として、雇用形態の多様化は不可避と認識することが重要であると考えます。そのため、就業という視点だけでなく、起業・創業支援等についても検討することが必要と考えます。
	○水産加工業ではかなりの人数のパートを必要としているが、なり手がおらず外国人を雇っている状態。町の人口が減って良いというのは非常にまずい考え。大洗に移住したい人には住居、仕事を斡旋するなどして、人口を減らさないような施策を真剣に考えていかなければ大変なことになってしまうと思う。	○水産加工業は、大洗町に根付いた産業と認識しています。町内の就業機会として重要な産業であることから、就業環境の改善に対する支援、就業情報の提供等の支援施策について検討したいと考えます。
	○低収入層の結婚率が低いことを鑑み、女性の雇用の場を増やし結婚に結び付けていくべきではないか。	○女性の就業については、男女共同参画の視点からも重要な施策であり、子育て後の就業支援等も含めて支援施策を検討したいと考えます。
	○建設・介護・看護・保育の分野は資格があっても希望する求職者がおらず人員不足の状態である。	○雇用のミスマッチ現象の一つと考えます。待遇改善やPR等の支援等について必要な施策を検討したいと考えます。

分野	意見要旨	対応案
移住・定住	○30～40 代で住宅ローンの申し込みをする方は、大洗町よりも地代が安く閑静で区画整理されている東前地区を選択する人が多い。渋滞対策・利便性・予算など検討できれば、人口流出がある程度妨げられるのではと思う。	○移住・定住において住宅確保の支援は重要な施策と考えており、住宅取得については新築とともに中古住宅の取得支援、賃貸住宅の供給等についての施策を検討したいと考えます。
	○他県だけでなく県内向けのPRをしたり、若年層を呼び込み大洗のファンを増やせば、住む人も出てくるかもしれない。	○不動産事業者や転出入者への調査を実施し、居住希望者のニーズを明確にしながら、必要な施策を検討したいと考えます。
	○雇用問題と人口問題を別で考えて、大洗の就業者がなぜ大洗に住まないのかという理由を明確にするべき。	

分野	意見要旨	対応案
その他	○大洗の住民は水戸方面で職を探しているというのが実態となっている。	○ご指摘の通り、地方創生においては市町村の枠組みだけでは不十分な分野もあることから、近隣市町村や茨城県の動向を把握しながら施策に反映したいと考えます。
	○転入転出ともに近隣の市が多いが、ひとつの生活圏としてお互い協力できるよう、広域のビジョンでまちづくりを考えていくべきではないか。	
	○25年後の大洗町を悲観的に見るのではなく、成熟された豊かな大洗町と捉えた方が肩の荷が下りるのではと思う。全町民で議論して作り上げるというプロセスが大切。25年後の事なので、今の中高生がどんな問題提起をするかなど確認するべきではないか。	○このまま人口が減少すると、地域にどのような影響が表れるかについて整理するとともに、目標人口として大洗町の適正な人口はどの程度か等について検討したいと考えます。
	○母親、父親が子どもと向き合える時間を持てるような雇用、忙しすぎると婚活も難しいので、若者も自分の時間を持ちやすい雇用を増やすための対策をした方がいいと思う。	○雇用や子育て・教育等の個別施策とともに、それによって実現できる生活を提案していくことが重要と考えており、目指すべきライフスタイル等について検討したいと考えます。